特定小電力トランシーバー

FTH-508

取扱説明書

総務省技術基準適合品

47 チャンネル

交互通話用 20 チャンネル
中継通信用 27 チャンネル

耐塵防浸構造 IP67

・粉塵が内部に入らない
・水深 1m の水中に 30 分間没しても内部に水が入らない

完全防水ではありませんので、水中での使用はできません

お買い上げいただき、ありがとうございました。正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

お読みになった後は、大切に保管してください。
このトランシーバーは国内専用モデルです。
海外では使用できません。

目 次

安全上のご注意 ～必ずお読みください～

本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。

⚠ 危険	誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

🚫	行ってはならない禁止事項です（例 分解禁止）。
❗	必ず守っていただきたい注意事項です。

⚠危険

自動車やバイク等を運転しながら使用しない
事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。
運転者が使用するときには、車両を安全な場所に止めてからご使用ください。

航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では電源を切る
電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。

引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所で使用しない
発火事故や落下事故などの原因になります。

電池が漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険
化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者の診断を受けてください。

電源端子をはんだ付けやショートをしない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。

火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・使用・放置しない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

当社指定以外の充電器で、付属のニッケル水素電池（FNB-135）を充電しない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

⚠警告

分解や改造をしない

本機は電波法に基づく無線局です。"証明ラベル"や"製造番号"を剥がしたり、分解や改造をすると違法ですのでおやめください。また、ケガ等の事故や故障の原因になります。

本機は"IP67"の耐塵防浸構造になっていますが、特に海水などがついたときは、洗面器等に真水を入れ、なるべく早く洗い流し乾いた布などで拭きとる。

性能や寿命を低下させる原因になります。

汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしない

性能や寿命を低下させる原因になります。

煙が出ている、変な臭いがするときは電源スイッチを切って、ニッケル水素電池（FNB-135）またはアルカリ乾電池を外す

火災や故障の原因になります。お買い上げいただきました販売店または八重洲無線株式会社国内営業部に修理をご依頼ください。

安全上のご注意

⚠注意

指定以外のオプションを使用しない
ケガの原因になります。
また、本体の故障や破損の原因にもなります。

アンテナを持って、本体を振りまわしたり投げたりしない
本人や他人に当たり、ケガの原因になります。
また、本体の故障や破損の原因にもなります。

アンテナをむやみに折り曲げたりしない
アンテナの変形や破損の原因になります。

強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない
故障の原因になります。

付属のニッケル水素電池（FNB-135）は、充電器の周囲温度が5℃～ 35℃の範囲であることを確認して充電する
故障の原因になります。

磁気カードなどをトランシーバーに近づけない
キャッシュカードやプリペイドカードなどの内容が消去されることがあります。

長時間ご使用にならない場合には、安全のため電源をオフにし、ニッケル水素電池（FNB-135）またはアルカリ乾電池を外す

イヤホンを使用するときは音量を大きくしない
聴力障害の原因になることがあります。

エマージェンシー機能を使用する場合はイヤホンを使用しない
聴力障害の原因になることがあります。

人の多い場所では使用しない
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。

直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しない
変形や変色等の原因になります。

溶剤（シンナー、ベンジン等）や中性洗剤等でケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。ケースが汚れた場合には、真水で洗い流し、乾いた柔らかい布できれいに拭き取ってください。

小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。

ハンドストラップやベルトクリップは、確実に取り付ける
間違った取り付けかたは、落下によるケガやトランシーバー本体の破損などの原因になります。

運用時のご注意

- 他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃取することは法律で禁止されています。
- このトランシーバーは日本国内専用モデルです。海外では使用できません。
- 防浸構造になっておりますが、大量に水がかかる場所や水中での使用は避けてください。
- ご使用になる環境はそれぞれ異なりますので、全ての状態での防水性能を保証するものではありません。

ニッケル水素電池の リサイクルについて

付属のニッケル水素電池はリサイクルができます。ニッケル水素電池が不要になった場合は破棄せずに、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。

■使用済みのニッケル水素電池の取扱注意

- プラス端子とマイナス端子をセロハンテープやビニールテープ等で絶縁してください。
- 被覆を剥がしたり、分解しないでください。

お使いになる前に

アフターサービスについて

◎ 本機は、 厳しい品質管理のもとに生産されております。

万一運搬中の事故などに伴う“破損”または“ご不審な箇所”がございましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店または八重洲無線株式会社国内営業部（裏表紙参照）にお申し付けください。また同様に、万一故障したときには、お買い上げいただきました販売店または八重洲無線株式会社国内営業部まで修理をご依頼ください。なお、修理をご依頼になる場合には、故障の発生状況・症状等を具体的にお知らせください。

◎ 保証期間はお買い上げの日より1ヵ年です。

本製品には保証書が添付されています。 お買い上げいただいた日から1年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。過失など、故障内容によっては、保証期間中であっても有償修理の対象となる場合があります。

◎ 保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも保証期間が経過したものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。
また、お買い上げ日・販売店名等の必要事項が記入してない保証書も無効扱いにさせていただきますので、お買い上げいただきました販売店名・お買い上げ年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

正常に動かないとき　～オールリセット～

スイッチを押しても反応しないときや、『故障かな？と思うまえに...』の項目に従って点検しても正常に動作しないときは、次の操作を行ってください。

リセットを行うと、登録した内容はすべて消され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。

① 一度、[音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切る。
② [▲]、[▼]、[MODE] を同時に押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。
「ピッ」と鳴り、オールリセットされます。

耐塵防浸構造（IP67）について

本機の IP 規格・保護等級は IP67 です。MIC/SP 端子のラバーキャップと電池のフタをしっかり閉めた状態で、粉塵が内部に侵入せず防水に対しては、水深 1 mの水没に 30 分間耐えることができます。

本機の防水性能を末永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

■キズ、劣化、外れ、汚れなどの確認

- ボタンやスイッチ類のラバー
- MIC/SP ジャックのキャップ
- 電池を入れる背面フタの防水パッキン

■お手入れのしかた

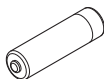
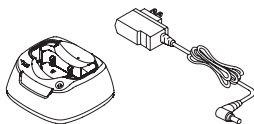
海水・砂・泥などがついたときは、下記の要領で手入れをしてください。

1. 必ず MIC/SP ジャックのキャップと電池を入れる背面フタを確実に閉める。
2. 洗面器に真水を入れ、手で少しずつ水をすくい汚れを洗い流す。
3. 乾いた柔らかいきれいな布で水分を拭きとって十分乾燥させる。

■オーバーホールのお奨め

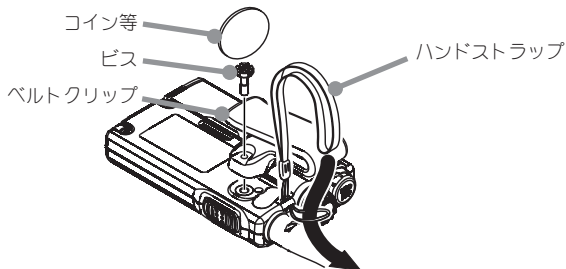
お買い上げから1年経過した後、前回のオーバーホールを行ってから1年が経過した後、またはキズ、劣化等が確認されたときはオーバーホールをお奨めします。なお、オーバーホール代金は有償となりますのであらかじめご承知ください。

付属品

ご使用になる前に付属品をご確認ください。

ニッケル水素電池 FNB-135

急速充電器セット VAC-60
（取扱説明書も含む）

ベルトクリップ及び取り付けビス

- 取扱説明書（本書）
- 保証書

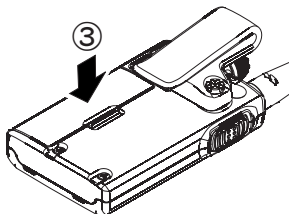
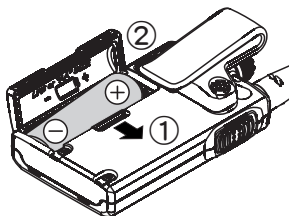
ベルトクリップ / ハンドストラップの取り付け

○ 故障の原因になりますので、必ず付属のビスを使用し、コイン等で確実に取り付けてください。
○ 丈夫な市販のハンドストラップを使用してください。

電池の入れかた

① ロックレバーをスライドし、ロックを解除してフタを開ける。

② 付属のニッケル水素電池（FNB-135）または市販の単三形アルカリ乾電池を（－）側から入れる。
電池の極性（＋）（－）を注意してください。

③「カチッ」と音がするまでしっかりとフタを閉める。

フタを閉める前に防水パッキンにキズ、劣化、外れ、汚れがないか確認してください。

使用時間の目安

使用できる時間の目安※は次のとおりです。

◎ ニッケル水素電池（FNB-135）➠ 約 33 時間

◎ アルカリ乾電池 ➠ 約 28 時間（日本製の場合）

電池残量はアイコン表示で知らせます。

➠ まだ使えます。

➠ 少なくなりました。

➠ 残りわずかです。

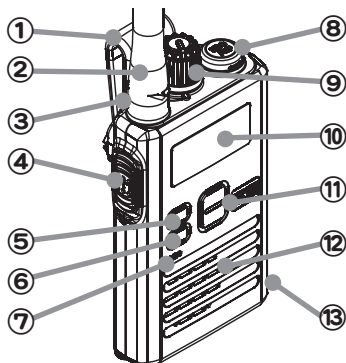
➠ すぐにニッケル水素電池（FNB-135）を充電してください。
（またはアルカリ乾電池を交換してください。）

※ 6秒送信、6秒受信、48 秒待ち受けの測定条件になります。
上記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使い方や周囲の温度などによって異なります。

補足 ニッケル水素電池（FNB-135）について

- ○ 初めて使用するときは、必ず充電してください。
- ○ 充電のしかたは、付属の「急速充電器セット VAC-60」の取扱説明書をご覧ください。
- ○ 充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- ○ 使用せず保管しておくだけでもわずかながら電池の劣化が進みます。
- ○ 長期間保管した場合は電池容量が低下していることがあります。必ず充電してから使用してください。

- ○ 長時間使用しない場合は、ニッケル水素電池（FNB-135）またはアルカリ乾電池を取り外しておいてください。
- ○ ときどき電池ケースの端子と電池の電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。
端子や電極が汚れていると、接触不良となり正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。
- ○ 電池を交換するときは、電源を切ってください。
- ○ ニッケル水素電池（FNB-135）または市販の単三形アルカリ乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。
故障や火災の原因になります。

各部の名称と機能

① ベルトクリップ（10 ページ）

② アンテナ

電波法上、取り外しができない構造になっています。

③ ハンドストラップ取り付け穴（10 ページ）

④ 通話（PTT）スイッチ

押している間は通話、放すと待ち受けの状態になります。

⑤ MODE ボタン

約 1 秒長押しすると「ピピッ」と鳴ってキーロック、再度約1秒長押しすると「ププッ」と鳴って、キーロックを解除します。

⑥ エマージェンシー（EMG）ボタン

約1秒長押しするとエマージェンシーアラーム（またはメモリーチャンネル）になります。

⑦ マイク

マイクに向かって話します。

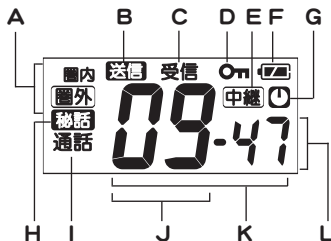
⑧ MIC/SP 端子

オプションのスピーカー / マイクロホンなどを接続する端子です。

オプションを使用しないときに、キャップをしっかり付けないと防浸にはなりません。

⑨ 電源スイッチ / 音量ツマミ

右へまわすと電源が入り、更にまわすと音量の調節になります。
カチッと音がするまで左へまわし切ると電源が切れます。

⑩ ディスプレイ

A. コールバック使用時に点灯 “圏内”が点灯・・・通話可能 “圏外”が点灯・・・通話不可能	F. 電池残量表示 G. オートパワーセーブ表示 オートパワーセーブを ON にすると点灯
B. 送信時に表示	
C. 受信時に表示	H. 秘話モード時に表示
D. ロック表示 ボタンをロックしたときに点灯	I. 3分間通話中表示 J. チャンネル番号表示
E. 中継チャンネル表示 中継チャンネル時に点灯	K. セットメニューの表示 L. グループコード表示

⑪ ▲(アップ)/▼(ダウン)ボタン

⑫ スピーカー

⑬ 電池を入れるフタ (10 ページ)

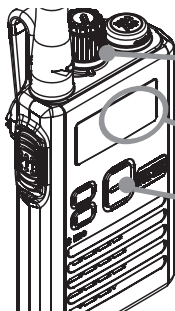
背面に電池を入れるフタがあります。

基本的な操作

基本的な通話のしかた

本機には、周囲の状況に応じて選べる3つの通話方法（ノーマルモード、グループモード、秘話モード）があります。

通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは基本となるノーマルモードの通話方法を説明します。

グループモードは18ページ、秘話モードは22ページを参照してください。

① 電源を入れる

[音量ツマミ] を右へまわす。

「ピッ」と電子音が鳴ります。

チャンネル表示

② チャンネルをあわせる

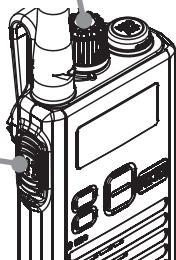
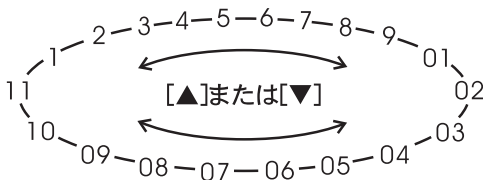
[▲] または [▼] を押して、
相手と同じチャンネルにする。

③ 音量ツマミ

[音量ツマミ] を 12 時の位置にあわせ、相手の音声を受信しているときに音量を調節する。

④ 押しながら話す

[通話（PTT）] を押しながらマイクに向かって話す。

- ディスプレイに“送信”と“通話”が表示されます。
- [通話（PTT）] を放すと、待ち受け状態になり相手の音声を聞くことができます。

○ ［▲］または［▼］を押すと、チャンネルは下記のように変わります。

○ 相手の声が途切れて聞こえるときは、"一時的にモニターをする"を参照してください（16 ページ）。

○ 連続して通話できる時間は3分以内で、その間ディスプレイに"通話"が表示されます。
3分間連続して通話し続けると、送信は自動的に停止します。
なお、送信が停止する 30 秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウンが表示され、送信が停止する 10 秒前には、「ピピピッ」と警告音が鳴ります。
また、送信が停止した場合、その後の2秒間は［通話（PTT)］を押しても「プーップーップーッ・・・」と警告音が鳴り送信できません。

他局の信号を受信しているときは、送信できません。
ディスプレイに"受信"が表示中、［通話（PTT)］を押しても「プーップーップーッ・・・」と警告音が鳴り送信できません。

ボタンをロックする

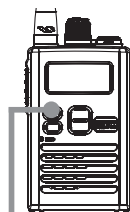
誤ってボタンに触れても、設定が変わらないようにすることができます。
下記をロックします。

- チャンネル設定
- DCS モードの切り替え
- オールリセット

■ロックする

[MODE] を約 1 秒以上押す。
「ピピッ」と鳴ってボタンがロックされ、"Om" が点灯します。

■ロックを解除する

再度 [MODE] を約 1 秒以上押す。
「ププッ」と鳴ってボタンのロックが解除され、"Om" が消えます。

一時的にモニターをする

受信信号の状態を、一時的にモニターする機能です。

■モニターにする

① [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切る。
② [▼] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

■モニターを解除する

一度電源を切り、再度 [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

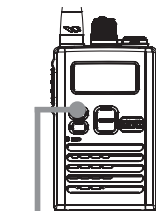
通話モードの切り替えかた

通話を行うモード（通話モード）として、次の３通りの方法があります。
周囲の状況に応じて使い分けてください。

ノーマルモード ➠ 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき（14 ページ）。
グループモード ➠ 他のグループの通話が聞こえてわずらわしいとき（18 ページ）。
チャンネル番号とグループコードが一致すると通話ができます。
秘話モード ➠ 他の人に通話を聞かれたくないとき（22 ページ）。

■通話モードを切り替える

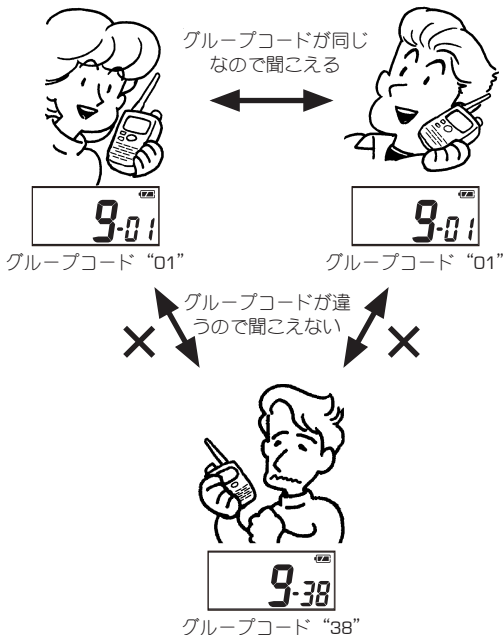
[MODE] を押すたびにモードが切り替わる。

・初期値はノーマルモードに設定されています。

グループモード

「同じチャンネルで、他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時に、あらかじめ同じグループコードに設定しておくと仲間同士の音声だけが聞こえます。

グループコードが同じなので聞こえる

グループコード“01”　グループコード“01”

グループコードが違うので聞こえない

グループコード“38”

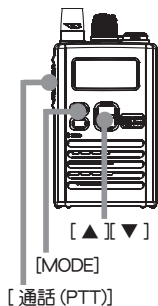
グループモードにすると、受信終了時の「ザーッ」音をカットして聞きやすくなります。
オプションのタイピンマイクなどを使用される場合は、グループモードで使用されることをお奨めします（詳細は 47 ページに記載してある“その他の機能設定”の“PTT ディレイ機能”を参照してください）。

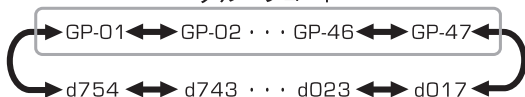
■設定のしかた

運用する前に仲間同士で同じグループコードに設定します。
初期値は“01”に設定してあります。

① [MODE]を押してグループモードにする。
現在設定しているグループコードが表示されます。

② [MODE]を押しながら[▲]を押す。
グループコードが点滅します。

③ [▲]または[▼]を押してグループコードを選ぶ。
GP-01 ～ GP-47（47通り）から選択します。

グループコード(47種類)が不足した時など、グループコードに替えて、108種類のDCSコード(d017 ～ d754)を使用することができます（20ページ参照）。

グループコードが38通りの旧機種と通話する場合は、GP-1 ～ GP-38以内で設定してください。それ以外のグループコードを使用すると通話できなくなります。

④ [通話(PTT)]を押す。
設定が終了します。

■通話のしかた

“基本的な通話のしかた”（14ページ）と同様に通話します。

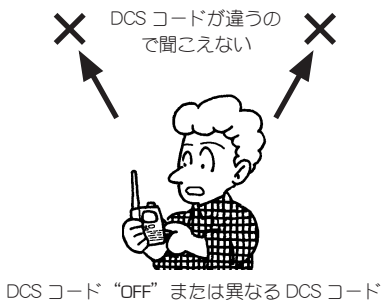
他人の通話が聞こえる場合は、グループコードを変更してください。

DCS コードに切り替える

グループモードで、グループコード（47 種類）が不足した時など、グループコードに替えて、108 種類の DCS コード（d017 ～ d754）を使用することができます。

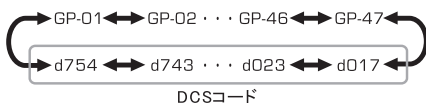
DCS コード“d023”　　DCS コード“d023”

DCS コードが違うので聞こえない

DCS コード“OFF”または異なる DCS コード

■設定のしかた

① [MODE]を押して、グループモードまたはDCSモードにする。

② [MODE]を押しながら[▲]を押す。
現在設定しているグループコードまたはDCSコードが点滅します。

③ [▲]または[▼]を押してDCSコードを選ぶ。
d017～d754（108通り）から選択します。

④ [通話(PTT)]を押す。
グループコードの代わりに“dc”が表示されます。

■通話のしかた

“基本的な通話のしかた”（14ページ）と同様に通話します。

■ DCSコードの確認のしかた

① [MODE]を押しながら[▲]を押す。
現在設定されているDCSコード“dXxx”が点滅し確認することができます。

② [通話(PTT)]を押す。
確認前の表示に戻ります。

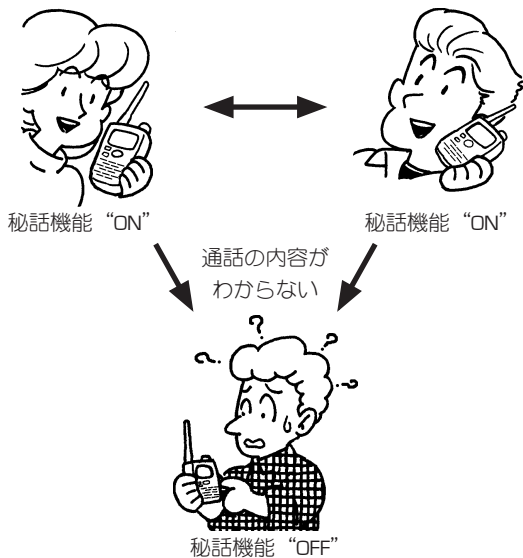
秘話モード

秘話モードに設定していない人は、通話内容を聞き取れなくなります。
秘話モードは、ノーマルモード、グループモードのどちらでも使用することができます。

秘話機能“ON”

秘話機能“ON”

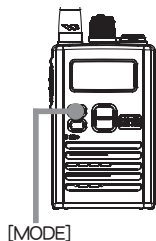
通話の内容が
わからない

秘話機能“OFF”

○ 仲間同士以外でも、同じチャンネルで秘話機能を動作させていれば、通話内容を聞かれる場合がありますので、重要な内容の交信は控えるようにしてください。
○ 秘話機能付トランシーバーでも、機種が違うと、交信できない場合があります。
○ FTH-508 以外のトランシーバーと通話をすると、音色が異なる場合があります。

■秘話モードに切り替える

"秘話" が点灯するまで、[MODE] を何度か押す。

ノーマル＋秘話モードの場合

グループ＋秘話モードの場合

■通話のしかた

"基本的な通話のしかた"（14 ページ）と同様に通話します。

セットメニューの操作

本機には 25 種類のセットメニューがあります。
各メニューの設定を変更するときは次の手順で行います。

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

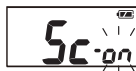
② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

セットメニューの“cb-xx”が表示されます。

③ [MODE] を押すたびに、セットメニューが切り替わる。

設定したいメニューを選択します。
例：“Sc-xx”を選択

[EMG] を押すたびに、反対方向へセットメニューが切り替わります。

④ [▲] または [▼] を押して、点滅している設定項目を選択する。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。
セットメニューの設定が終了します。

[通話 (PTT)] 以外に電源を切っても、セットメニューの設定を終了することができます。

セットメニュー一覧

表示	設定項目	選択項目	初期値	ページ
cb -xx	コールバック機能	OFF/ON	OFF	31
Sc-xx	スキャン機能	OFF/ON	OFF	42
bP-xx	ビープ音の ON/OFF	ON/OFF	ON	49
tb-xx	送信ビープ音の ON/OFF	OFF/ON	OFF	50
LE-xx	本機では動作しません	ON/OFF ※	ON	ー
LP-xx	照明ランプの設定	2/OFF	2	53
AP-xx	オートパワーセーブの設定	OFF/ON	OFF	48
cS- x	コールサイン機能	1 ～ 5	1	39
Pd-xx	PTT ディレイ機能	ON/OFF	ON	47
tP-xx	送信禁止機能	OFF/ON	OFF	52
Ph-xx	PTT ホールド機能	OFF/ON	OFF	51
EG-xx	外部マイク感度切替え	1 / 2 / 3	2	54
oc-xx	VOX 機能の ON/OFF	OFF/ON	OFF	26
oL-xx	VOX 感度設定	1 ～ 15	9	27
or-xx	VOX 遅延時間設定	0 ～ 15	5(約0.5秒)	27
Ec- x	エマージェンシー機能	1 / 2	1	29
Ac-xx	オートチャンネルセレクト機能	OFF/ON	OFF	43
AL-xx	マイク自動感度切替え機能	OFF/ON	OFF	55
cP-xx	コンパンダー機能	OFF/ON	OFF	44
hE-xx	音質切替え機能	1 / 2	1	45
Sq-xx	スケルチレベル調整	1 / 2 / 3 / 4	1	46
SL-xx	サイレントモード（バイブレーター）	OFF/ON	OFF	34
SI-xx	セレコールの ID 設定	OFF/01 ～ 20	OFF	33
SG-xx	セレコールのグループ設定	G0 ～ G9	G0	33
Sb-xx	セレコールのビープ音設定	1～ 3/OFF	1	34
cL-xx	クローン機能	OFF/ON	OFF	57

※：設定を変更しても機能は動作しません。

VOX 機能 ～音声で自動送信をする～

PTT スイッチを押さなくても、音声により送信 / 待ち受けを自動的に切り替えることができます。話すと送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

- ○ オプションの VOX 機能が内蔵されている VOX ヘッドセット VC-24 を使用する場合は、本体の VOX 機能を OFF に設定してください。
- ○ スピーカーから音が出ているときは、VOX 機能は動作しません。
- ○ この VOX 機能は本機単体で使用するもので、オプションの外部マイクロホンでは使用できません。
- ○ キーや音量ツマミを操作したときの振動がマイクに伝わり、誤送信することがあります。
- ○ VOX 感度を上げると周囲の音で誤送信することがあります。
- ○ PTT ホールド機能及び自動マイク感度切り替え機能と同時に使用することはできません。

■ VOX 機能を設定する

VOX 機能を使用するときは ON に設定します。

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“oc-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	VOX 機能を OFF にします。
on	VOX 機能を ON にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■通話のしかた

本機の内蔵マイクに向けて、話すと送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

■ VOX 感度を設定する

送信状態になるときの感度を設定します。

周囲の雑音が大きく、話をしていないのに送信状態になる場合は、VOX 感度を下げて（数値を小さくする）ください。

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“oL-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

1 ～ 9 (初期値) ～ 15	VOX 感度を設定します。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■ VOX 遅延時間を設定する

話をやめてから待ち受けの状態に戻るまでの時間を、約 0.1 秒間隔で 0 秒（設定値“0”）～ 1.5 秒（設定値“15”）の間で設定することができます。

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“or-xx”を選択する。

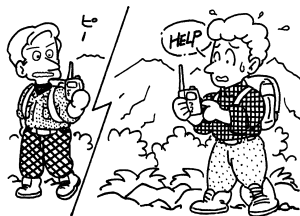
④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

0 ～ 5 (初期値) ～ 15	VOX 遅延時間を設定します。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

便利な機能

エマージェンシー機能
～アラームで緊急を知らせる（初期値）～

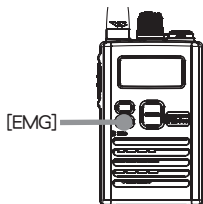
自動的にスピーカー音量が最大になり、“ピーッピーッピーッ・・・”とアラーム音が鳴り続け、周囲の人に緊急を知らせることができます。

セットメニューのエマージェンシー機能（Ec）により、あらかじめ仲間と決めておいた緊急連絡用メモリーチャンネルに自動的に切り替わり応答することができます（29 ページ）。

■エマージェンシー機能を使用する

[EMG] を1秒以上押す。

アラーム音が鳴り続けます。

■エマージェンシー機能を終了する

[EMG] を1秒以上押すか、電源を切る。

- ○ チャンネルとグループコード（DCS コードが設定されているときは“dc”）が点滅します。
- ○ 一度 [通話（PTT）] を押すと、4秒間隔で“ピーッ”を送信し、相手のスピーカーからも“ピーッ”音を鳴らして、呼び続けることができます。
- ○ [通話（PTT）] を押している間、アラーム音を中断して通話することができます。また、受信側もアラーム音を中断して、受信することができます。

- ○ アラームに設定する場合は、イヤピースマイクロホン、ヘッドセット、イヤホンなどは、トランシーバーに接続しないでください。
  周囲に緊急を知らせることができなくなります。
- ○ エマージェンシー機能が動作中は、[▲]/[▼] および [MODE] は動作しませんので、チャンネルやモードの切り替えを行うことはできません。
- ○ 秘話モードを設定しているときにアラーム音を受信すると、アラーム音の音程は通常より少し低くなります。

エマージェンシー機能
～緊急連絡用メモリーチャンネルで知らせる（任意設定）～

あらかじめ決めておいた緊急連絡用メモリーチャンネルへ自動で切り替わり応答することができます。

■緊急連絡用メモリーチャンネルの登録と設定

① [▲] または [▼] を押して、メモリーチャンネルにしたいチャンネル番号にあわせ、[MODE] で希望のモードに切り替える。

② [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切る。

③ [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

④ [MODE] を押すたびに、セットメニューが切り替わり、“Ec- xx”を選択する。

⑤ [▲] または [▼] を押して、“2”にあわせる。

1 初期値	緊急アラーム音で緊急を知らせる“アラーム”の動作になります。
2	[EMG] を押すと緊急連絡用メモリーチャンネルに切り替わる動作になります。

⑥ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

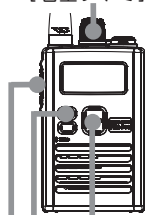
メモリーチャンネルを変更する場合は、再度上記の操作をおこない、操作⑤で数字を“1”にあわせて、“アラーム”にしてください。その後、再度上記①から⑥の操作をおこなってください。

■エマージェンシー機能を使用する

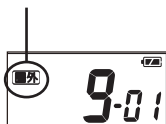
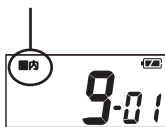
[EMG] を1秒以上押す。
緊急連絡用メモリーチャンネルで通話することができます。

エマージェンシー機能が動作中にチャンネルやモードの切り替えができなくなります。

■エマージェンシー機能を終了する

[EMG] を1秒以上押すか、電源を切る。

コールバック機能
〜通話可能か常時チェックしたい〜

グループモード時に、コールバック機能を使用すると、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」、電子音とアイコンで常時チェックしながら通話ができます。

通話できない時は
“圏外”が点灯

通話できる時は
“圏内”が点灯

	状 況	電子音	アイコン表示
通話可能	相手と通信できる範囲にいる	約1分後に一度だけ「ピピッ」と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点灯する
	相手の電源が入っている		
通話不可能	相手と通信できない場所にいる	約1分後に一度だけ「ププッ」と鳴る	電子音が鳴った後“圏外”が点灯する
	相手の電源が切れている		

■コールバック機能を設定する

① [MODE] を押してグループモードにする。
仲間同士で決めたグループコードとチャンネル番号になっているか確認します。
異なる場合は、“グループモード”（18 ページ）を参照して、同じグループコードとチャンネル番号に切り替えてください。

② [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切る。

③ [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

④ [MODE] を押して“cb-xx”を選択する。

⑤ [▲] または [▼] を押して設定項目を選択する。
コールバック機能を使用する場合は“cb-on”にする。

oF(初期値)	コールバック機能を OFF にします。
on	コールバック機能を ON します。

⑥ [通話 (PTT)] を押す。
セットメニューの設定が終了し、ディスプレイに“圏外”が点灯します。
コールバック機能をオフにすると“圏外”は消灯します。

⑦ コールバック機能が動作する。
相手局と通話可能か定期的に自動で送信してチェックします。
通話可能であれば“圏内”、通話不可能であれば“圏外”が点灯します。

○ コールバック機能が動作中、通話することも可能です。
“基本的な通話のしかた”（14 ページ）と同様に通話できます。

○ 同じチャンネルで同じグループコードが他の使用者に使われているときは、“グループモード”（18 ページ）を参照して、仲間同士で他のグループコードに切り替えてください。

○ 他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞こえませんが、受信状態（ディスプレイに“受信”が表示）になり、通話できません。

セレコール機能　～特定の局を呼び出したい～

セレコールは 3 種類の呼び出しができます。

○個別呼び出し（Sc 01 ～ Sc 20）

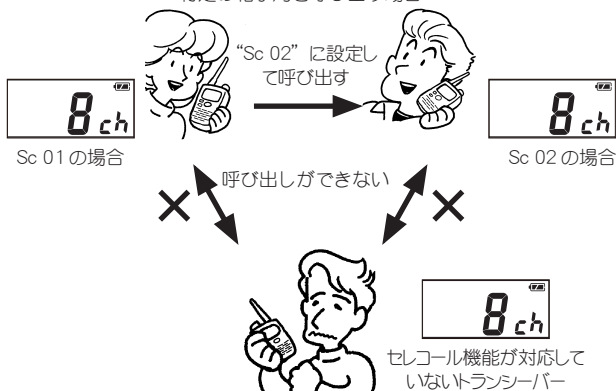
01 ～ 20 から選択した相手局のみ呼び出すことができます。

○グループ呼び出し（Sc G0 ～ Sc G9）

0 ～ 9 から選択したグループのみ呼び出すことができます。

○全局一斉呼び出し（ALL）

一斉に呼び出すことができます。

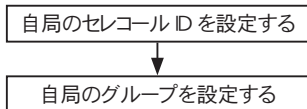
- ○ 呼び出されたときは、アラームまたはバイブレーターで知らせることができ、セットメニューでどちらか選択することができます。
- ○ 機能を使用する場合は、あらかじめ仲間同士でセレコール ID とグループナンバーの設定が必要です。
- ○ グループモードや秘話モードでもセレコール機能を使用することができます。
- ○ セレコール機能が対応していないトランシーバーで、同じチャンネルを待ち受けしても呼び出しをすることはできません。

電波の弱い場所やノイズの多いところでは、セレコール機能が動作しない場合があります。

■セレコール機能を使用する前の準備

セレコール機能を使用する前に、下記の準備をしてください。

自局のセレコール ID を設定する

↓

自局のグループを設定する

セレコール機能の運用は 35 ページを参照してください。

セレコール機能は下記の機能と同時に使用することはできません。セレコール機能が優先されます。
・コールバック機能　・VOX 機能

■自局のセレコール ID を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“SI-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、セレコール ID を選択する。

oF（初期値）	セレコール機能を OFF にします。
01 ～ 20	自局のセレコール ID を選択します。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■自局のグループを設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“SG-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、グループを選択する。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。

G0（初期値）～ G9	自局のグループを選択します。

セットメニューの設定が終了します。

便利な機能

■サイレントモード（バイブレーター）の ON/OFF 設定

セレコール着信音をバイブレーターに変更することができます。

サイレントモードを ON にすると、電源投入時に「ブルッ」とバイブレーターが動作します。

① [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して “SL-xx” を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	サイレントモードを OFF にします。
on	サイレントモードを ON にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■セレコール着信音を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して “Sb-xx” を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、着信音を選択する。

oF	着信音を OFF にします。
1（初期値）	ビープ：パターン 1 サイレントモード※：パターン1
2	ビープ：パターン 2 サイレントモード※：パターン 2
3	ビープ：連続 サイレントモード※：連続

※：サイレントモードが ON のときは、バイブレーターのみ動作します。振動パターンは 3 種類で 15 秒間振動します。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

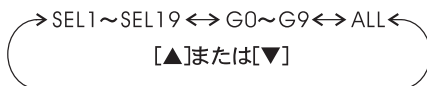
■セレコール呼び出しをする

あらかじめ自局のセレコール ID を設定してください（33 ページ参照）。

① チャンネルスイッチをまわして、相手局と同じチャンネルにあわせる。

② [MODE] を押しながら [▼] を押す。
セレコール選択画面になります。

③ [▲] または [▼] で呼び出し方法を選択する。

→ SEL1〜SEL19 ↔ G0〜G9 ↔ ALL ←
[▲]または[▼]

個別で呼び出す・・・・・ 呼び出したい相手局のセレコール ID（Sc 01 〜 Sc 20）を選択します。

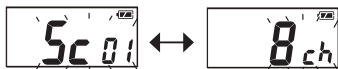
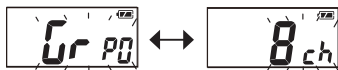
グループで呼び出す・・・ 呼び出したいグループ（Sc G0 〜 Sc G9）を選択します。

全局を呼び出す・・・・・ Sc AL を選択します。

④ 上記のいずれかが表示されている時に、[通話 (PTT)] を押す。

■セレコール呼び出しを受けた時

個別呼び出しとグループ呼び出しは、「着信音が鳴る」または「バイブレーターが動作する」とともに、ディスプレイにセレコール表示とチャンネルが点滅し着信を知らせます。

個別呼び出しを受けたとき

グループ呼び出しを受けたとき

全局呼び出しを受けたとき
（変化しない）

コール機能
〜相手をコール音で呼び出したい〜

信号を受信した相手を、コール音（ピピピッ・・・）で呼び出すことができます。

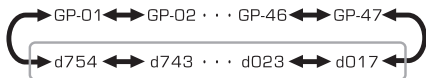
補足　コール機能を使用する場合は、あらかじめ相手局と同じDCSコードに設定してください。

■ DCSコードを設定する

① [MODE]を押して、グループモードまたはDCSモードにする。

① [MODE]を押しながら[▲]を押します。
DCSコード設定状態になり“GP-01”が点滅します。

“dc”を表示させる

② [▲]または[▼]を押して、仲間同士で決めたDCSコードを設定する。

③ [通話(PTT)]を押す。
DCSコードが設定され“dc”が表示されます。

④ 仲間同士で決めたチャンネル番号にあわせる。

■相手を呼び出す

[EMG]を短く押す。

信号を受信した相手をコール音（ピピピッ・・・）で、呼び出すことができます。

注意　相手の信号を受信しているとき（ディスプレイに“受信”が表示されているとき）は、[EMG]を押しても“プーップーップーッ”と警告音が鳴るだけで、コール音で呼び出すことはできません。

コールサイン機能
～相手をコールサインで呼び出したい～

本機にコールサインを設定することができます。
最大 5 局まで設定することができ、初期値は 1 に設定されています。
仲間同士で違う番号のコールサインを設定しておくと、自局に設定した電子音の回数が相手局に送出され、誰から呼ばれたのかコールサインとして判断することができ、呼び出すことができます。

■コールサインを設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“cS-x”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、コールサインを選択する。

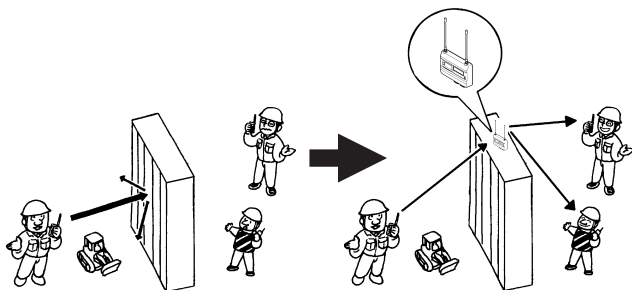
数字	電子音
1	ピロロッ
2	ピロロッ ピロロッ
3	ピロロッ ピロロッ ピロロッ
4	ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ
5	ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■相手を呼び出す

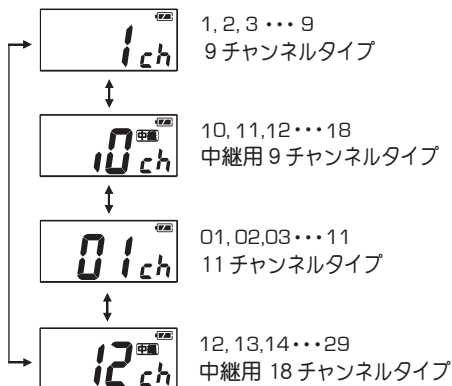
送信中に [MODE] を押す。
押している間だけ相手にコールサインを送ることができます。

中継機能　～通話距離をのばすには～

途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できないときは、当社対応の中継器を中間点に設置することにより、交信範囲が広がります。
なお中継器の詳細については、お買い上げいただきました販売店または八重洲無線株式会社国内営業部（裏表紙参照）にお問い合わせください。

中継器を介した場合は、下記の機能を使用することができません。
- エマージェンシー機能の緊急用メモリーチャンネル機能
- コールバック機能
- セレコール機能
- オートチャンネルセレクト機能
- クローン機能

■中継機能を設定する

下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル(合計 27 チャンネル)が追加されます。

① [音量ツマミ]を左にまわしきり、電源を切る。
② [▲]を押しながら[音量ツマミ]を右にまわし、電源を入れる。
中継機能用のチャンネルが追加されます。
③ [▲]または[▼]を押すたびに、チャンネル番号が変わる。

■設定を解除する

① [音量ツマミ]を左にまわしきり電源を切る。
② [▲]を押しながら音量ツマミを右にまわし、電源を入れる。

■通話のしかた

① [▲]または[▼]を押して、中継用チャンネルの中で中継器と同じチャンネル番号にあわせます。
② “基本的な通話のしかた”(14 ページ)と同様に通話します。

○ グループモードを使用することができます(中継器と同じグループコードにあわせてください)。
○ 当社指定の中継器のみ使用可能です。

その他の機能設定

スキャン機能　～受信信号を探す～

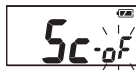
自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。信号を受信するとスキャンが一時的に停止し、信号がなくなると、約 10 秒後に再びスキャンを開始します。

■スキャン機能を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“Sc-xx”を選択する。

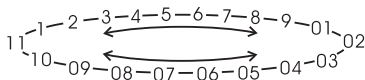
④ [▲]または[▼]を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	スキャン機能を OFF にします。
on	スキャン機能を ON にします。

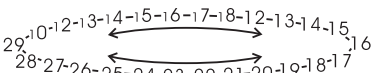
⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

■スキャンを開始する

[▲] または [▼] を約 1 秒以上押す。
チャンネルをスキャンすることができます。

スキャンを開始したチャンネルからスキャンします。

11－1－2－3－4－5－6－7－8－9－01－02－03－04－05－06－07－08－09－10－11

中継機能用チャンネルが追加された場合、中継機能用チャンネルからスキャンを開始すると中継機能用チャンネルのみスキャンします。

29-10-12-13-14-15-16-17-18-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29

■スキャン方向を変更する

スキャン中に [▲] または [▼] を押す。
スキャン方向を変えることができます。

■スキャンを止める

[MODE] または [通話 (PTT)] を押す。

オートチャンネルセレクト機能
～空チャンネルを探す～

[通話 (PTT)] を押すたびに、誰も使用していないチャンネルを自動で探し出し、相手局と交信することができます。

相手のトランシーバーも、オートチャンネルセレクト機能を ON にしてください。

オートチャンネルセレクト機能は下記の機能と同時に使用することはできません。オートチャンネルセレクト機能が優先されます。

- ・スキャン機能
- ・コールバック機能
- ・エマージェンシー機能

■オートチャンネルセレクト機能を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“Ac-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	オートチャンネルセレクト機能を OFF にします。
on	オートチャンネルセレクト機能を ON にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了し、チャンネル表示が“AU”に変わります。

■オートチャンネルセレクト機能を開始する

[通話 (PTT)] を押して、一呼吸おいてから通話する。
押した瞬間に、誰も使用していないチャンネルを自動的に探します。

コンパンダー機能 ～バックノイズを軽減する～

相手が話しているときに聞こえる「サー」というバックノイズを軽減し、相手の音声を聞き取りやすくします。

相手のトランシーバーも、コンパンダー機能を ON にしてください。

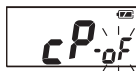
■コンパンダー機能を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“cP-xx”を選択する。

④ [▲]または[▼]を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	コンパンダー機能を OFF にします。
on	コンパンダー機能を ON にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

音質切り替え機能 ～高域をカットした受信音にする～

通常の受信音より高域をカットして音声のみを強調した音質に切り替えることができます。相手がバックノイズの多い場所などで運用しているときに発揮します。

■音質切り替え機能を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“hE-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

1（初期値）	高域が効いたメリハリのある音質になります。
2	高域をカットした音質になります。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

スケルチレベル設定 〜耳障りなノイズを消す〜

信号が入感していないときに出る、耳障りなノイズ（「ザーッ」音）を消すことができます。

- ○ スケルチレベルを上げすぎるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください。
- ○ 数字が大きいほどレベルが高くなります。

■スケルチレベルを設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“Sq-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、レベルを設定する。

1（初期値）	スケルチレベル - 小
2	スケルチレベル - 中
3	スケルチレベル - 大
4	スケルチレベル - 最大

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。

セットメニューの設定が終了します。

PTT ディレイ機能
～耳障りなノイズを消す（グループモード）～

相手の信号を受信してから、待ち受け状態になるときに「ザーッ」と出る耳障りなノイズ音をカットして受信します。

○相手のトランシーバーも、PTT ディレイ機能を ON にしてください。

■ PTT ディレイ機能を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“Pd-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

on（初期値）	PTT ディレイ機能を ON にします。
oF	PTT ディレイ機能を OFF にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

オートパワーセーブ機能 ～電源切り忘れ防止～

2時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源をOFF にします。 1分前に「ピピッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。

■オートパワーセーブ機能を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して"AP-xx"を選択する。

AP-oF

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。
ON に設定すると、ディスプレイに が点灯します。

oF（初期値）	オートパワーセーブの設定を OFF にします。
on	オートパワーセーブの設定を ON にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

ビープ音の設定 ～ボタン操作確認音～

ボタンやスイッチを押したときに、確認音として電子音が鳴ります。

初期値は ON に設定されています。
ビープ音が耳障りなときは OFF に設定してください。

■ビープ音を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“bP-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

on（初期値）	ビープ音の設定を ON にします。
oF	ビープ音の設定を OFF にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

送信ビープ音の設定 ～送信操作確認音～

[通話(PTT)]を押して送信を始めた際に電子音が鳴り、送信状態になったことを音で確認することができます。

■送信ビープ音を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“tb-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、“ON”を選択する。

oF（初期値）	送信ビープ音の設定を OFF にします。
on	送信ビープ音の設定を ON にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

PTT ホールド機能 (内蔵マイクのみ)

初期値は [通話 (PTT)] を押している間送信し、放すと待ち受けの状態になりますが、“ON” に設定すると [通話 (PTT)] を一度押すと送信状態のままになり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻るホールド機能付き PTT スイッチに変更することができます。
連続送信時間は最大3分間で、3分が経過すると、自動的に待ち受けの状態に戻り、約2秒間 “プーップーッ” と警告音が鳴ります。
警告音が鳴り終わってから再び送信したい場合は、再度 [通話 (PTT)] を押してください。

外部マイクの [通話 (PTT)] では、この機能は動作しません。

■ PTT ホールド機能を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して “Ph-xx” を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	PTT ホールド機能を OFF にします。
on	PTT ホールド機能を ON にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

送信禁止機能
～ガイドシステム子機として使用時に便利～

ON に設定すると、[通話 (PTT)] を押しても「プープー・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに“Err”と表示されて送信できません。

■送信禁止機能を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

② [MODE] を押して“tP-xx”を選択する。

③ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	送信禁止機能を OFF にします。
on	送信禁止機能を ON にします。

④ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

照明ランプの設定

通常は 2 に設定されており、ボタンを押すと照明ランプが約2秒間点灯します。OFF にすると、照明ランプを常時消灯することができます。

■照明ランプを設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して"LP-xx"を選択する。

④ [▲]または[▼]を押して、設定項目を選択する。

2（初期値）	照明ランプが約2秒間点灯します。
oF	照明ランプを常時消灯します。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

外部マイクの感度設定（外部マイクのみ）

外部マイクの感度を調節することができます。

■外部マイクの感度を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“EG-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

1	外部マイクの感度 - 小
2（初期値）	外部マイクの感度 - 標準
3	外部マイクの感度 - 大

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

EG- 2

内部マイク自動感度切り替え機能

声の大小に応じて、自動的に適切なマイク感度に切り替わります。

■内部マイク自動感度切り替えを設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して“AL-xx”を選択する。

④ [▲] または [▼] を押して、設定項目を選択する。

oF（初期値）	自動感度切替機能を OFF にします。
on	自動感度切替機能を ON にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。または電源を切る。
セットメニューの設定が終了します。

その他の機能設定

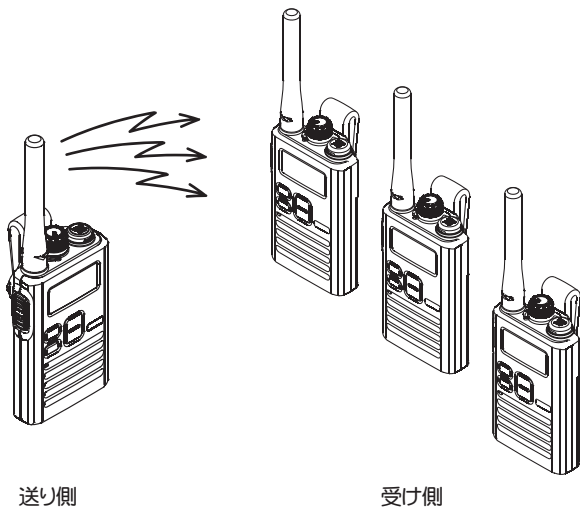
クローン機能　～同じ設定に複製する～

送り側に設定してある内容をワイヤレスで複数台一斉にコピーすることができます。

コピーできる設定内容は下記のようになります。

◎ 現在設定しているチャンネル / グループコード /DCS コード

◎ 現在設定している通話モード（ノーマル / グループ / 秘話）

◎ セットメニューの設定内容

送り側　　　受け側

○ 雑音の多い場所でクローン機能を行うと正常にコピーできない場合があります。

○ 送り側と受け側を 1 m以内に近づけた状態で、クローンを行ってください。

■クローン機能を設定する

1 受け側を設定する

① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切る。

② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れる。

③ [MODE] を押して"cL-xx"を選択する。

④ [▲]または[▼]を押して、設定項目を選択する。
クローン機能を行う場合は ON に設定します。

oF（初期値）	クローン機能を OFF にします。
on	クローン機能を ON にします。

⑤ [通話 (PTT)] を押す。
ディスプレイに"CCcL"が表示される。

2 送り側を設定する

⑥ 受け側と同様、手順①～⑤の操作を行う。

⑦ [通話 (PTT)] を押す。
データーが送出されます。

○ 受け側は正常にコピーされると「ピピッ」と音がして、コピーされたチャンネルをディスプレイに表示します。
○ "CCcL"のまま変化しない場合は、再度 [通話 (PTT)] を押すと送り側からデーターが送出されます。

⑧ 電源を切る。
セットメニューの設定を終了します。

電源を OFF にすることで、クローン機能は OFF になりますので、セットメニューで OFF にする必要はありません。

故障かな？ と思うまえに...

間違った操作をしていませんか？
修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

◎ 電源が入らない！

- 電池は正しく取り付けてありますか?
  電池の極性（＋)(－）をご確認ください。
- 電池は消耗していませんか?
- ニッケル水素電池（FNB-135）は十分に充電してありますか?

◎ 送信できない！

- 通話（PTT）スイッチを正しく押していますか?
- 送信禁止機能が ON になっていませんか?
- PTT ホールド機能が ON のときに、外部マイクを使用していませんか?
- 相手が話し中ではありませんか?
  信号を受信してディスプレイに“受信”が点灯しているときは、送信できません。
- 外部マイク使用の場合、きちんと緩みなく接続されていますか?

◎ 通話できない！

- 相手と同じ通話モード（ノーマルモード・グループモード・秘話モード）に設定していますか?
- 相手と同じチャンネルに設定していますか?
- 相手と同じグループコード（または DCS コード）に設定していますか?
- 相手との距離が離れすぎていませんか?

◎ 勝手に電源が切れる！

- オートパワーセーブ機能が設定されていませんか?
- 電池が消耗していませんか?
- ニッケル水素電池（FNB-135）は十分に充電してありますか?

◎ グループモードで運用中に他の人の通話が聞こえる！

- モニター機能になっていませんか?
  電源を切り、再度電源を入れると解除されます。
- 他の人も同じグループコードや DCS コードを使用している場合があります。
  グループコードまたは、DCS コードを変えてください。

定 格

送受信周波数：1ch ～ 9ch:　422.2000MHz ～ 422.3000MHz
(12.5kHz ステップ)　01ch ～ 11ch: 422.0500MHz ～ 422.1750MHz
制御チャンネル：422.1875MHz
中継装置使用時：
$_1$0ch ～ $_1$8ch:
送信 440.2625MHz ～ 440.3625MHz
受信 421.8125MHz ～ 421.9125MHz
12ch ～ 29ch:
送信 440.0250MHz ～ 440.2375MHz
受信 421.5750MHz ～ 421.7875MHz
電 波 型 式：F3E/F2D
通 信 方 式：単信および半複信方式
送 信 出 力：10mW 以下（電波法施行規則第6条適合）
受 信 感 度：－ 8dBμV 以下（@ 12dB SINAD）
低 周 波 出 力：40mW 以上（@ 4 Ω、40mW 時歪率 10% 以下）
電源電圧 1.2V 時
動作温度範囲：－ 10℃～＋ 50℃
定 格 電 圧：DC 1.2V
動作電圧範囲：DC 1.0V ～ 1.7V
本 体 寸 法：54.0 × 86.0 × 17.0mm
（幅×高さ×奥行き：アンテナおよび突起部を含まず）
本 体 重 量：約 120g (FNB-135 を含む）

RoHS 指令準拠

この定格は性能向上のため予告なく変更することがあります。

オプション

◎ 充電式ニッケル水素電池 FNB-135 ※1
◎ 急速充電器セット VAC-60 ※1（CD-60 ＋ PA-56A）
◎ 防浸型スピーカーマイクロホン MH-73A4B ※2
◎ スピーカーマイクロホン MH-57A4B ※2
◎ タイピン型イヤホンマイク MH-62A4B ※2
◎ VOX ヘッドセット VC-24 ※2
◎ インターコム型ヘッドセット YH-100
◎ スポーツ / 工事ヘルメット用ヘッドセット YH-101A
◎ PTT ケーブル CT-87 ※2
◎ イヤホンアダプター CT-101 ※2
◎ タイピンマイク EK-313-107 ※2
◎ 小型タイピンマイク MH-381A4B ※2

※ 1：付属品と同等です。
※ 2：ねじ込み式の防水コネクターを使用しているため接続をするときは、十分に締めこんでご使用ください。
締め込みが不十分な場合、接触不良を起こし通話できないことがあります。

キー操作早見表

スイッチ / キー	動作
電源スイッチ（音量ツマミ）	電源の ON/OFF（音量調節）
MODE	通話モードの切り替え
EMG	エマージェンシー機能
▲	チャンネルのアップ
▼	チャンネルのダウン
MODE+ 電源スイッチ	セットメニューの操作
▲ + 電源スイッチ	中継機能チャンネル追加
▼ + 電源スイッチ	モニター機能
▲ + ▼ +MODE+ 電源スイッチ	オールリセット
▲ +MODE	グループモード /DCS モードの設定

索 引

STANDARD

正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがご購入いただいた販売店または、下記までご相談ください。

取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。詳しくは下記の URL をご覧ください。

販売：八重洲無線株式会社 国内営業部
〒 140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8
天王洲パークサイドビル
電話：03-6711-4055
URL：http://www.yaesu.com/jp/

製造：バーテックススタンダードＬＭＲ合同会社

中国印刷